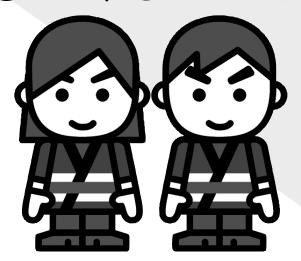
あなたのチカラを求めています!

道道其是近天

上記して恣意性心の

消防団とは、その地域に「住んでいる」「働いている」 人によって構成される市町村の消防機関です。

一人ひとりが、それぞれの仕事をもちながら、"自 分たちのまちは、自分たちの手で守る"という思い で、行方市では1342人が消火活動や救助活動だけで なく、災害を起こさないための火災予防や防災啓発 など様々な活動を行っています。今回は地域を守る 消防団を特集します。











東日本大震災から1年

ちょうど1年が経ちます。 東日本大震災発生。 最大のマグニチュード 9.の巨大地震から 2011年3月11日、午後2時46分。 日本の地震観測史上

行方市においても震度6弱の揺れを観

効性のある防災計画を策定し、情報伝達 内全域で未曾有の被害を受けました。市 下水道などの復旧を行いました。 では災害対策本部を設置し、 の損壊、 た部分もあり、この震災を教訓として実 しかし、既存の防災計画が機能しなかっ 備蓄倉庫等の防災機能を確保して 死者1名、重傷者1名、 住宅も3, 電気・水道等のライフラインの 全壊117·半壊698)、 避難所の確保、 400棟以上が損壊を 道路、 市内の被害 また道路 水道、 市

いかなければなりません。 の道路

制づくりを進めていかなければならない

ことは言うまでもありません。しかし、



地震で被害を受けた玉造甲(里区)

りが災害に対する備えを自ら準備し、 それだけでは不十分です。市民一人ひと

際に起こってしまったら落ち着いて、

自 実

家族の身を守ることが大切です。

のです。

して次に求められるのが

『助け合い』な

求められる地域の力

までには2日間を要しました。 とれず何度も足を運ばざるをえなかった 者が訪問時に自宅にいないなど、確認が が寸断された個所もある状況の中、 齢者約400人の安否確認を行いました。 員の方と協力し、市内の一人暮らしの高 こともあり、 ぶことでした。地震の影響で市内の道路 しかし、電話が使えない状況だったため 東日本大震災発生時、市職員が民生委 確認する方法は実際に自宅に足を運 実際に安否確認が終了する 高齢

りました。災害時において市は避難所の など、 らゆる災害を想定して防災対策や応急体 せん。東日本大震災の教訓を踏まえ、あ 合い』が行われていた地区もたくさんあ 区長さんが先頭に立って炊き出しを行う 員が自主的にお年寄りの見回りをする、 正確な情報収集等を行わなければなりま 設置や、道路、 そのような中、 行方市の強みである『地域の助け 水道、下水道などの復旧、 地区によっては消防団

> かったという例がたくさん報告されてい に甚大な津波被害を受けた東北3県にお いて消防団員の方の適切な誘導で命が助 員の方はとても頼もしい存在です。 災害時、 地域の防災の要として消防 実際

団員確保が今後の課題

消防団は地域ごとに拠点を構え、 有事

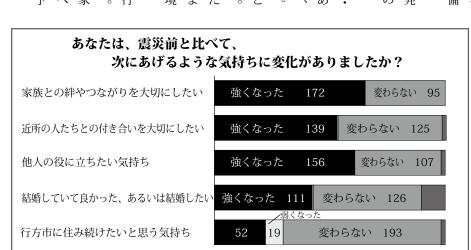
0)

即時対応力などの特性が注目されています り、 安全の確保に対する関心が高まりつつあ このような状況の下で、地域の安心 '能性が指摘されています。 しかし、この地域防災の重要な存在と 消防団の地域密着性、 要員動員力、

> 動に市民のみなさんが理解を深めること 生かしてみませんか。そして消防団の活 安全のためにあなたのチカラを消防団で 力できることがあります。地域の安心・ 自分に合った活動のしかたや少しでも協 全なまちをみんなの力でつくっていきま も地域の防災力に繋がります。 消防団は誰でも参加できる活動です。 安心で安

を整えてまちを見守っています。 常に適切に対処できるよう設備・装備 また東日本大震災級の大規模地震の 集中豪雨等の風水害が頻発

定です。 庭への防火指導、 方市でも女性消防団が結成されました。 す。人口の減少、少子高齢化、社会環境 団員数は現在1,342人となっていま 行方市でも合併当初1、447人だった なる消防団員は近年減少傾向にあります の防火訪問などを中心に活動していく予 (性消防団員の活動は広報活動や一般家 変化などに伴って年々減少しています。 このような状況の中、平成23年度に行 一人暮らしの高齢者



資料: 行方市震災アンケート調査 平成 23 年

大切なまちや家族を守りたい。



現在、行方市では1,342人の消防団員の方々が活躍しています。会社員、自営業の方、主婦の方など、 年齢や性別、職業を問わず、いろいろな方が参加しています。消防団はどなたにでも参加できる活動です。あなたのチカラをそんな消防団で生かしてみませんか。

消防団は火災発生時ばかりではなく、地震や台風等の自然災害のときの活動や 行方不明者の捜索などさまざまな活動を行っています。指示を出す立場としてい つも心がけているのは団員の安全です。迅速な行動が求められる現場ですが、ど んなときも2次災害を引き起こすことのないよう注意しています。

以前、夜警をしていたところ、一人暮らしの高齢者の方から「消防団が活動してくれていると思うとほっとする。寒い中ほんとうにご苦労様」と声をかけられたことがあります。消防団は大変なこともありますが、地域に貢献できる活動です。少子高齢化の影響もあり団員が減少傾向ですが、ひとりでも多くの方にご協力いただき、一緒に地域の安全を守っていきたいと思っています。



行方市消防団団長 **齋藤 基**さん

勤務地である香取市で祭りの実行委員会や NPO 法人の運営などをきっかけに 救急救命のボランティアなど様々なことを経験してきた中で、これから地元であ る行方市に対しても何か貢献したいとの思いから入団しました。

以前から常に自分の中で2%くらいはリスクに対しての緊張感を持って生きなければと感じていましたが、昨年の震災で「それでは足りないのでは・・・」と考えるようになりました。生活している以上、いつ何が起きるかはわかりません。

現在は団員数が減少傾向にありますが、その年齢、場所でなければ経験できないことがたくさんあります。女性も男性も「自分たちの地域は自分たちで守る」という思いで多くの人と一緒に活動していけたらいいですね。



行方市女性消防団 **海老澤 文江**さん

父が消防団員だったこともあり、消防団の活動に対しては憧れと尊敬の気持ちを持っていました。昨年の4月に入団し、初めて火災現場に出動したときは平日の昼間だったこともあり、消防機庫には私だけしか参集していませんでした。先輩から携帯電話で、火事現場に消防自動車で向かうよう指示を受けたので、使命感を持って車を運転し、火災現場に向かいました。

また昨年度は自動車ポンプの4番員として操法大会に出場し、機械操作に挑んだので、やりがいを感じました。今後も少しでも地域に貢献できるよう日々、訓練に励んでいきたいと思います。



玉造支団第4分団第6部 (谷島消防団)

森作 文晃さん

平常時の活動

防火啓発活動

地域を災害から守るためには、住民の防災意識 の向上が不可欠です。まず災害を起こさせない ため、火災予防や防災啓発などを積極的に行っ ています。

救命講習会

市民のみなさんがいざというときに疾患やケガに素早く対応できるよう、AEDの使い方をはじめとした応急手当の普及・啓発を実施しています。



1月22日、里・内宿消防団(玉3-1)が地域住 民を対象に AED の操作研修会を行いました

災害時の活動

消火活動

火災が発生すると、消防団員は現場に駆けつけ、 早期鎮火に努めます。大規模災害の場合は近隣 の消防団と連携し、より効率の良い消火を行い ます。

救助活動

地震や風災害などといった自然災害が発生した場合は、地形や道路網、世帯状況などを熟知した消防団員が、的確かつ迅速に救助・救出を行います。

水防活動

台風や集中豪雨などにより、河川の氾濫や堤防の決壊が起きないよう土嚢積みなどの防災活動を迅速に行い、地域の被害軽減に努めます。



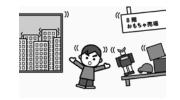
夏期訓練時には台風 や集中豪雨に備えて 土嚢の準備を行いま した

平成 24 年 3 月 11 日実施

行方市災害情報伝達訓練

昨年3月に発生した東日本大震災での教訓を踏まえ、災害時の情報収集の仕方、収集された情報の整理・分析、地域での情報伝達・共有化、防災無線電話の操作等必要な各種手法を習得することによって、災害対応の基本的な初動活動の迅速化を図ることを目的に災害時情報伝達訓練を行います。

行政区の区長、民生委員児童委員、消防団、 市職員などが協力し、休日の午前8時00分に 震度5弱の地震が発生し、市内全域に被害が 生じたことを想定し訓練を行います。東日本大



震災発生時、携帯電話、固定電話は繋がり難い状況が続きました。今回の訓練ではそういった環境のときもスムーズに情報伝達を行えるよう原則として携帯電話、固定電話は使用せずに行う予定です。(消防団幹部の方と市防災担当職員が所有している災害時優先電話、庁舎間については防災無線電話を使用)

東日本大震災発生から1年。家庭や地域で も災害に対する心構えを確認し、「もしものと き」少しでも被害が軽減されるように備えてい きましょう。